



第6回

スペシャル対談

ゲスト 山梨県副知事 平出 巨氏

撮影・白壁賢一

新副知事と山梨と富士北麓の未来を展望



九州帯に「これまでに経験したことのない大雨」という異例の表現の気象予報が出され、その通りの被害をもたらした今年の梅雨は、幸い本県にはこれといった被害もなく、梅雨明けとなりました。富士北麓、道志地域の皆様におかれましても、梅雨明け後の盛夏の中、ご健勝のうちに過ごされておられることとお喜びいたします。

私・白壁賢一も、県議会議員として東西奔走の日々を過ごさせていただいております。このたびは、本年度から新しく就任された平出巨副知事と、これから

の県政の課題、展望などについて対談いたしました。本県は、今、富士山文化遺産への登録、中部横断自動車道、リニア新幹線の開通など、重要な節目を迎えています。いずれも北麓地域の将来に密接に関わってくる重要事業です。そこでこれらを中心に、県政の展望について語り合おうとともに、北麓地域の住民の立場から、いろいろな要望、提案を投げかけてみました。

山梨県議会議員
白壁賢一

お気軽にご意見をお聞かせください。



「白壁賢一」で検索してください!

白壁賢一 検索

TEL 0555-73-3737 FAX 0555-73-3757

〒401-0301 山梨県南都留郡富士河口湖町船津1505

白壁賢一 公式サイト: <http://www.shirakabekenichi.jp/>

白壁賢一 E-Mail: Shirakabe@kawaguchiko.ne.jp

【スペシャル対談】白壁賢一×平出 巨

国際性豊かな学校教育の推進 ジェトロの開設、能動的な対応を

白壁 経済振興も観光を軸にとらえていけば、可能性も膨らんでいきます。教育問題についても然りです。今、日本には、国際性豊かな教育というのが求められています。富士河口湖町には、マリア幼稚園という未来志向の幼稚園が数年前に開設され全国的な注目を集めています。ここでは、園での生活の全て英語で話されています。語学は幼児期に学べば、子供たちはアツという間に初歩的な会話を習得してしまいます。いまの中学、高校6年間の何十分の一の間にです。知事が提唱する「おもてなし」の国際版には欠かせない教育ではないでしょうか。幼児教育の国際化を通して、地域全体の思考レベルも上昇し、それが企業誘致に有利に働くことも考えられます。ジェトロ事務所の開設にしても、これを本県の成長戦略にどう結びつけていくかという発想が必要です。私もジェトロの会員に登録していた経過もあり、事情はわかっているつもりです。

行政も意外性探る姿勢を 樹海の自殺対策は前向きに

白壁 米国のミネソタ州にプランソンという町があります。小さな町ですが、そこではカントリーミュージックの愛好者がコンサートを開いていました。それが人気を呼び、次々にイベントが開催されるようになり、今では観光客が押し寄せて世界的に有名な町になっています。もともとは地域の開発などというお堅い発想はなかったようですが、ちょっとしたきっかけで地域が発展に結びつく好例だと思えます。

教育にしても、観光とは違分野ですが、地域の活性化という、本来の目的とは違った

りですが、ジェトロ自体は統計調査が主体の機関で、地域の側が何かを仕掛けていかなければ、ジェトロから自発的には動いてはくれないでしょう。外国の大使館への仕掛けなどと併せて積極的な働きかけが必要でしょう。

平出 初等教育の国際化、外国語教育については、文部科学省の指導要綱に従って推進されており、本県でもモデル的に推進しています。初等教育の国際化は、これから避けて通れない課題であり、教育に関しては、私学の方が先端的なものをいち早く導入しています。

さらに教育が、観光の面にも効果を及ぼすという白壁県議のご意見も十分理解できます。また、ジェトロ地方事務所については、海外展開に必要な高い現地情報をタイムリリーに受けられる点に期待が寄せられており、他に専門知識や情報、経験を有する職員による適切な相談、指導についてもメリットがあると思います。

効果も生まれています。

平出 確かに、地域の活性化が意外なところから始まる例は多く、注目に値すると思います。行政の思考にも、こうした意外性が求められる時代となっており、横断的な対応や旧弊に捕らわれない発想が求められています。

白壁 論点がランダムになってしまいますが、以前から私が主張し、知事も政策としてとり



白壁賢一
ゲートウエーが山梨全域に繋げて行くことを活性化の道とすべき

平出 巨
様々な分野で今こそ、旧弊にとらわれない発想が求められている

あげていた「富士北麓国際交流ゾーン構想」にしても、いまひとつ盛り上げてきません。

このほど、国際コンモンズ学会世界大会が富士北麓で開かれますが、これ以外には目立った行事がありません。交流ゾーン構想は、現在は企画県民部が担当していますが、私は観光部に移管して、観光政策として推進すべきと訴えてきました。これまでの事業に関しては、地元も積極的に動いてこなかったこともあり、何か物足りない状態です。

加えて言えば、今は観光関連で地元も食べたいける状況ですが、将来的には、それだけではダメです。そのためには高い次元の語学学習が必要であり、マリア幼稚園は、そういった意味でも重要なのです。

このほか、青木ヶ原の自殺防止対策についてもです。今年は、樹海自殺増加の引き金になったといわれる小説『波の塔』の作者・松本清張の没後20周年ということで、東京のテレビキー局が制作したドラマが放送されましたが、私は、こんでもない話だと思いました。

樹海は、地域の貴重な自然遺産です。本県は、樹海での県外者の自殺が要因で、未だに

人口当たりの自殺率日本一というマイナスイメージがあります。プラスにすべき財産をみすみす損しているわけです。

平出 国際交流ゾーンの推進につきましては、県には、地域住民や各種団体、市町村等の各主体が行なう取組への支援が、市町村には、国際交流ゾーン形成に向けた中心的な役割が期待されています。

また、自殺対策につきましては、特にテレビや新聞、映画、テレビドラマなどは社会に大きな影響を及ぼしますので、メディア側も自殺報道については特段の配慮が必要になると思います。

白壁 県の財政運営についても懸念していることは種々あります。県債の処理などについても、県民の不安を払拭するためにも収支計画をタイムリーに公表しなければいけません。県民に実態を公開しながら、着実に処理してほしいと願っています。私は、基本的には横内県政を指示する立場にあります。しかし、地元、富士北麓地域の住民の要望も訴えていきたいと考えています。副知事にも、苦言を呈する機会も多いかと思いますが、よろしくお願いたします。併せて、平出副知事のこれからの頑張りを期待しています。

平出 ありがとうございます。引き続き、よろしくお願申し上げます。

新副知事と山梨と 富士北麓の未来を展望

「富士山世界文化遺産」「中部横断道」「リニア」…
富士北麓地域の活性化に、どう結びつけるか

刻々と変わる山梨、北麓の課題 副知事としてのどのように対処

白壁 新副知事への就任、ご苦労さまです。これは、知事部局のトップとして横内知事の県政運営を補佐していくわけですね。県庁マンになってから、既に40年とこのことですから、県政の変遷、課題など知り尽くしていることでは、県政を取り巻く環境は世界、国内の情勢の変化にあわせて刻々と変わっています。私が、県議会議員として、県政に関わらせていただいているわずか5年余りだけでも、社会情勢は急激に変化しています。

特に、昨年の3・11東日本大震災、とりわけ福島原発事故を境に、いろいろな点について、物の見方が変わってきました。

平出 ご指摘の通り、現在は、時代の大きな転換期を迎えつつあります。私も、これまでの県庁マンとしての経験を生かした上で、さらに新しい動きについても積極的に取り入れ、知事の県政運営を補佐していきたいと思っています。もちろん一人の力では限界がありますので、各部署の最高責任者から末端の若い職員まで幅広く意見を聞きながら、斬新で質の高いものを取りあげていきたいと思っております。

白壁 副知事就任以前の長いキャリアの期間にも、1990年代からの、「失われた10年」の言葉で表現された日本という国の停滞がありました。ところが、21世紀に入っても回復が見られず、現在では「失われた20年」などとも言われます。国の停滞は、いざい、山梨県の停滞にもつながるわけですね。産業振興、少子高齢化による人口減対策、地域商店街の空洞化など、待ったなしの対応が迫られています。

私の暮らしている富士北麓地域も、それらすべてが当てはまります。地域から県政論議の場に送り出させていただいている私の立場も、そういった課題解決への対応を県に求め、提案をするという意味で、大きな責任を感じています。

平出 「待ったなし」というのは、まさにその通りです。こうした課題に的確に対応しながらも、目先の

事柄の処理だけでなく10年先、20年先、さらには50年先を見据えた根本的な対策も進めていく必要があると思っております。

白壁 次世代の暮らしを配慮しなければならぬ、というのは私も同じ考えです。その意味では、県は「山梨県産業振興ビジョン」なるものを策定していますね。各分野での目標を定めています。ただ、あくまでもビジョンであり、問題は、実際に実現が可能なのかどうかということですね。

平出 産業振興ビジョンは、地域の中小企業が今後も持続的に発展していくためには、新たな産業分野に積極的に挑戦していくことが重要であるという考えに基づき、本県において今後成長が期待される5つの分野と11の産業領域を示すとともに、経営革新の基本的な考え方や業種転換の指針を示しています。

具体的には、山梨県の持つ豊かな自然や歴史文化、産業などを活用し、国内外から本県を訪れる人々との交流を進めるインバウンド観光や地域ブランドツーリズム、本県の高い技術力を活かしたもののづくり産業、地域振興や医療・福祉など地域の課題解決や今後新たな需要が見込まれる産業等についての振興・活性化を図ることで、本県産業に新しい芽吹きを呼び起こそうというものです。

県のビジョンの達成には 民間を含めたオール山梨で

白壁 個々の項目を拝見させていただくと、確かに「ビジョン」としては立派なものに仕上がっています。ただし、厳しく言わせてもらえば、プランそのものは立派でも、役所が決定したものはとくく失敗が多い。

その一因といえば、民間とのチームワークができていないことだと思います。例えば、国家単位のことになりますが、韓国などは、国と民間が「オール韓国」で国際競争に対処している。最近では原発の受注競争で大統領自ら商談に力をつけて、日本の競争を逆転してしまっています。

山梨県という行政・経済単位でいうなら、ビジョンにしても、県だけで策定するのではなく、民間の課題に、富士山の世界文化遺産登録をどのような形で活用していくか、という課題があります。富士山は、当初の自然遺産から文化遺産としての登録に変わりましたが、私としては、あくまでも観光に絡めての活用を大前提にすべきだと考えます。

平出 ご指摘の通り、山梨は、中部横断自動車道、リニア新幹線、富士山世界文化遺産など、山梨の可能性を飛躍的に高める様々なプロジェクトが、目の前で現実のものとして動き始めています。富士山世界文化遺産については、

目前に迫りましたイコモスの現地調査に向けた事前準備に加え、県民運動・国民運動の展開など、万全の体制となるよう準備に取り組んでいます。また、世界遺産の登録後を見据え、保存管理や普及啓発の拠点となる「世界遺産センター」についても検討を進めています。

白壁 とりあえずは、直近の富士山世界文化遺産への登録を、山梨のゲートウエーとして位置付けて、本県の活性化を計っていくべきだと考えます。中部横断道、リニアについては、企業誘致による経済振興が語られることが多いのですが、山梨のイメージの中心は、なんといっても富士山を象徴とする豊かな自然です。このキーワードを核に、企業立地の足がかりとしていくべきです。ゲートウエーについては、ビジョンセンターを発進点とします。富士山麓でも、場合によっては世界遺産のセンターを甲府市に置いてもいいのです。とにかくゲートウエーを山梨全域に繋げて行くことを活性化の道とすべきです。

富士北麓地域の経済関係者も、横断道、リニアは中

ノウハウや意見を導入して、「オール山梨」で挑戦するというのが成功の秘訣ではないでしょうか。

平出 このビジョンの推進に当たり、様々な産業分野にわたる官民の相談窓口が連携し、各組織が一体となって対応する「産業振興ビジョン推進ネットワーク」を構築しました。

これにより、既存の縦割りにとられず分野横断的・機動的に事業者を支援する体制がスタートしています。

こうした施策の実効性を高めていくには、民間の意見や活力を吸収していくことが不可欠であり、ご指摘のように官民一体の「オール山梨」でやることがなければならぬという点についても、十分に認識しております。

エネルギー地産地消の推進 文化遺産登録、各事業に有効活用

白壁 知事は、この6月定例県議会の所信表明の中で、本年度の重点施策として「新産業の創出」「定住人口の確保」「甲府市中心部の再構築」の3点をあげました。また、新たな提言として、「エネルギーの地産地消」などについても強調しました。

いずれも、この10数年来の課題であり、しかも、横内県政以前のリーダーが取り組んできて、なかなか克服できなかった難題です。これらはいずれも1年や2年で達成できるものではなく、例えば、「エネルギーの地産地消」などは、達成目標が2050年というものもあります。

そんなことはないと思いますが、「まだ先のこと」などと緩やかだったのでは、目標の達成は、到底実現できるものではありません。トップが率先し、各部署の長から末端職員までが一丸となつて、それぞれの目標に取り組んでいただきたい。その意味では、各部署を統合、調整する立場にある副知事の役割は、大変重要になります。

平出 「エネルギーの地産地消」に関しては、現在、県内で使われる電力は、年間60億キロワットアワーですので、今後の省エネルギー技術の進展など踏



●米倉山の太陽光発電パネル



●小水力発電所

まえると、2050年には50億キロワットアワー後に抑えられると予測されています。これに必要な発電量については、県内用住宅の約半数と、ほぼ全ての事業所に発電効率の高い太陽光発電設備を導入するとともに、小水力発電所の開発が有望な地域には積極的に設備を整備し、必要量を確保するとしています。本県の場合、豊富な日照時間や省水力発電を可能にする立地などに恵まれていることも強みであり、決して不可能な目標ではないと考えての目標設定です。

白壁 「エネルギーの地産地消」プランについては、横内知事も相当力説しておられるようですが、実現することができれば、国内だけでなく、世界的なモデルケースにもなると思います。しかし、現状はまだプランの段階です。2050年といえ、私たちの世代では、見ることができるとかというものが、実現させるには相当な努力が必要です。いままから全力投球で当たらないと不可能ですね。クリーンエネルギー関係とくらべて、本県にとってもっと現実的なものに、中部横断自動車道、リニア新幹線の開通・県内駅決定があります。それに、経済関係では「JETRO(独立行政法人)日本貿易振興機構貿易情報センター」の本県への開設が決まったようですね。中部横断道、リニアは本県の未来設計に関して、明るい材料なのですが、それぞれの完成・開通は本道の将来計画のスタートライン立ったという程度に過ぎません。要は、それを、どのようにして本県の発展に反映させていけるかということですね。

横断道、リニア駅とも、私の地域には直接の接点はないように見えますが、経済面とくに本地域の主要事業である観光には密接な関係があると捉えています。この機会を、生かすか、殺してしまふかは、当然、地元地域の努力が必要ですが、県のゆるぎない対策が不可欠です。さらには、未来どころか直近の



●富士御室浅間神社(富士河口湖町)



●「富士山世界文化遺産登録」山梨県推進協議会

京圏、関西圏だけでなく日本海側諸地域とも接続します。富士山文化遺産への誘致として期待が大きいのです。さらに海外を視野に置けば、リニアは国際ターミナルとしてとらえるくらいの構想が必要ですね。

平出 富士山世界遺産やリニア新幹線、中部横断道の効果を最大限に発揮させるには、富士北麓地域とリニア新駅のある甲府圏域を円滑に結ぶことが必要です。現在、両圏域は、国道137号、若彦路、国道358号等により結ばれていますが、両地域をより早く円滑に連絡できるようアクセス強化を図っていきたく考えます。



山梨県副知事
平出 亘 [ひらいでわたる]

昭和27年生まれ。長野県立富士見高校卒業後の同46年、山梨県職員。知事政策室秘書課長、知事政策局長などを経て、現職。



山梨県議会議員
白壁 賢一 [しらかべけんいち]

1960年生まれ。93年に33歳で旧河口湖町議に初当選、3期務める。2003年に富士河口湖町議に当選し2期。この間、議長などを歴任。07年に山梨県議会議員に初当選。県民クラブに所属。